

平成 30 年度

平成 30 年度 大台ヶ原自然再生推進委員会議事概要

1. 日時 平成 31 年 3 月 12 日 (火) 13 : 30 ~ 16 : 30

2. 場所 奈良春日野国際フォーラム 第 1 会議室

3. 参加者

【委員】

木佐貫 博光	三重大学大学院生物資源学研究科 教授
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館 学芸課長代理
高柳 敦	京都大学大学院農学研究科 講師
鳥居 春己	奈良教育大学自然環境教育センター 特任教授
村上 興正	元京都大学理学研究科 講師
揉井 千代子	公益財団法人 日本野鳥の会奈良支部 幹事
横田 岳人	龍谷大学理工学部 准教授

【オブザーバー】

近畿中国森林管理局 計画保全部計画課	役田 学	企画官
奈良県 地域振興部南部東部振興課	久保 良佳	課長補佐
奈良県 農林部農業水産振興課	天野 留奈	主査
奈良県 くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課	井上 弘貴	主事
三重県 農林水産部獣害対策課	力久 秀夫	班長
上北山村 地域振興課	更谷 亮太	主事補
川上村 地域振興課	亀井 裕二	主事
(一財) 自然環境研究センター	千葉 かおり	主席研究員
	日名 耕司	研究員
	中田 靖彦	研究員
(株) 応用生物	草加 速太	主任研究員
	稲田 敏昭	研究員
(株) 一成	小林 桃子	

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所	河本 晃利	所長
	榎本 和久	国立公園課長
	澤志 泰正	野生生物課長
	蒲池 紀之	生物多様性企画官
	竹下 守昭	自然再生企画官
	戸田 博史	野生生物課 野生鳥獣感染対策専門官
	関 貴史	吉野自然保護官事務所 自然保護官
(株) 環境総合テクノス	樋口 高志	環境部 マネジャー
	樋口 香代	環境部 リーダー

#### 4. 議事

- (1) 平成 30 年度大台ヶ原自然再生事業検討状況の概要報告
- (2) 大台ヶ原自然再生事業における平成 30 年度業務実施結果
- (3) 大台ヶ原自然再生事業における平成 31 年度業務実施計画(案)
- (4) 平成 31 年度大台ヶ原自然再生推進委員会及び関係ワーキンググループの開催予定 (案)
- (5) 大台ヶ原自然再生委員会設置要領の改正

#### 5. 概要：

##### (1) 平成 30 年度大台ヶ原自然再生事業検討状況の概要報告

- ・ 資料 1 は議事 (2) の内容を全部含めた概要報告であるため、ここでは議論せず、内容の確認のみとした。

##### (2) 大台ヶ原自然再生事業における平成 30 年度業務実施結果

###### 【1. 森林生態系の保全・再生】

1. 森林生態系の保全・再生については、特に問題なし。

###### 【2. ニホンジカ個体群の管理】

- ・ ツキノワグマ対策については、大台ヶ原では十分に対応している。今後必要になった場合に検討するという事である。
- ・ 妊娠個体については、胎児と羊水の重量を測定しておき、妊娠率と体重の関係について分析していく必要がある。
- ・ 生息密度が下がるとともに、胎児の性比が、若干♂に偏ってよっているという結果が出ている。この結果についても、資料 2-1 に入れておく。
- ・ 東大台に比べると、明らかに西大台におけるシカの妊娠率の低下が大きい。東大台ではミヤコザサを餌としているが、西大台はササが少ないため、栄養条件が悪くなってきていることと関係している可能性がある。この問題を検討するためには、シカが食べているものを明らかにする必要がある。
- ・ 今までは西大台と東大台をシカが行き来していると考えていたが、分けて考えた方がよいという結果が出てきた。今後は、目標捕獲頭数についても分けて考えていく必要がある。
- ・ 個体数調整については、捕獲事業を早く始めて、途中経過を見ながら捕獲戦略（捕獲場所、捕獲方法）を練っていく方がよい。
- ・ シカが植生に与える影響について、下層植生の調査はしているが、植物の生長のためには光条件が重要なので、基礎的な情報として、林冠の状況を調べておく必要がある。劣化した森林を回復させるという意味では、林冠の状況という視点は重要である。

###### 【3. 生物多様性の保全・再生】

3. 生物多様性の保全・再生については、特に問題なし。

###### 【4. 大台ヶ原全体の変化に関する調査】

- ・ 大台ヶ原のトウヒ林における、あたたかさの指数がトウヒの分布限界に近づいているということである。
- ・ 大峰山系ではあきらかに温暖化の影響が出ており、林冠木と下層植生に齟齬が現れている。シラ

ビソ林の下層にトウヒ、トウヒ林にウラジロモミが出てきている。

【5. 持続可能な利用の推進】

- ・ 利用のピークである5月、10月に路肩駐車が多い、ということを資料に示しておくこと。
- ・ 利用のピーク時以外や、平日はオーバーユースしていない。利用を分散させるため、公共交通の利用促進を進める、ということを課題として示しておく。
- ・ 登録ガイドのメリットを高めることについて、検討を進めていく必要がある。

【平成30年度大台ヶ原自然再生推進計画2014点検等にかかる業務実施結果】

- ・ 資料2-1には点検結果が示されていない。資料2-4に書かれている事業の評価は非常に重要な部分なので資料2-1にも示しておく。

(3) 大台ヶ原自然再生事業における平成31年度業務実施計画(案)

- ・ 糞粒法とREM法の相関について検討していくことについても書いておく。
- ・ 蘚苔類調査については、前回の調査結果(メッシュ調査)を分析してから調査計画を練る必要がある。
- ・ 平成31年度業務実施計画については、議題2で示された項目ごとの課題などを踏まえて書き込む必要がある。特に個体数調整の部分については、参考資料2-2-7に次年度に実施すべき案が示されているが、それが実施計画には反映されていない。他の項目についても、議題2における検討結果を踏まえて整合性を取るようにする。
- ・ 植物の開花・結実状況と、特定外来生物調査については、項目を分けて実施した方がよい。

(4) 平成31年度大台ヶ原自然再生推進委員会及び関係ワーキンググループの開催予定(案)

- ・ 蘚苔類調査については、現地検討会までに調査方法等について、検討しておく。
- ・ 鳥類調査については、前回の調査結果を踏まえて、調査方法を改良してから実施する。

(5) 大台ヶ原自然再生委員会設置要領の改正

- ・ 大台ヶ原自然再生委員会設置要領の改正案、平成31年度の大台ヶ原自然再生推進委員会、ワーキンググループの構成案については、承諾された。

以上